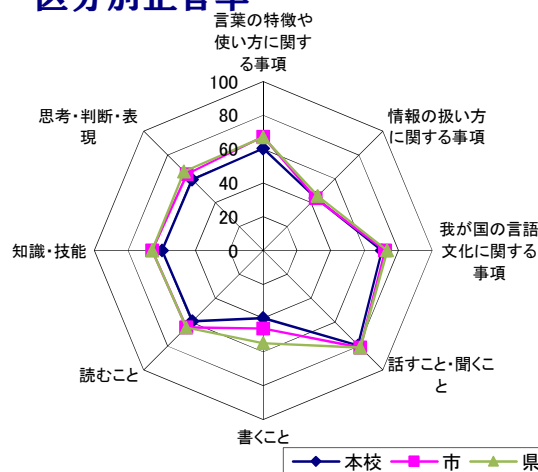


# 宇都宮市立横川西小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	60.4	67.4	67.1
	情報の扱い方に関する事項	44.0	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	70.3	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	79.4	81.2	81.2
	書くこと	40.1	46.2	54.9
	読むこと	59.2	64.3	64.5
観点	知識・技能	59.8	65.7	65.7
	思考・判断・表現	59.5	64.0	66.3



## ★指導の工夫と改善

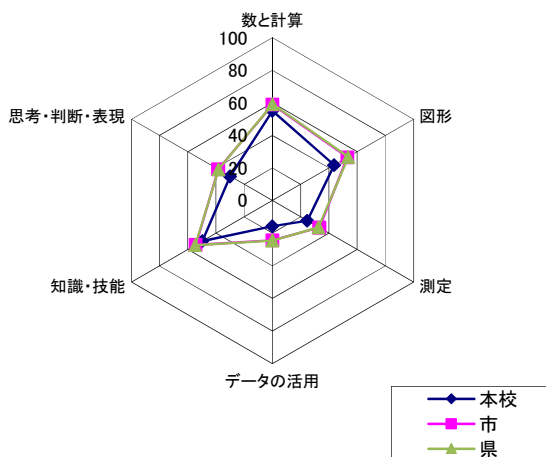
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は60.4%で、県の正答率を6.7ポイント下回った。</li> <li>○漢字の読みでは、県の正答率を11.2ポイントで上回るものもあった。</li> <li>●ローマ字表記されたものを正しく読むことができた児童が40.7%で、県の正答率を14.3ポイント下回った。</li> <li>●「主語と述語の関係について理解している」の平均正答率は61.5%で、県の正答率を6.0ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を定着させるために、漢字の色々な使い方に触れさせたり、小テストをこまめに行ったりする。</li> <li>・形が似ているローマ字を復習する機会を設けたり、タイピングの練習をしたりすることで、ローマ字の定着を図る。</li> <li>・主語と述語について復習するとともに、主語と述語を選ぶ問題に取り組みせたり、主語と述語を明確にした短文を書かせたりすることで、知識の定着を図る。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本領域の平均正答率は44.0%で、県の正答率とほぼ同じであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中や家庭学習に分からない言葉があったときに、国語辞典を使って自分で調べる習慣を身に付けさせる。さらに、調べた際には、前後の文章から内容にあった意味がどれかを考えさせるようにする。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は70.3%で、県の正答率を3.1ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字のへんやつくりについて、新出漢字練習の時に押さえるだけでなく、これまで学習した内容についても確認テストをするなどして定着を図る。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本領域の平均正答率は79.4%で、県の正答率とほぼ同じであった。</li> <li>○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができた児童が87.9%と高かった。</li> <li>●話し方の工夫を捉えることができた児童は73.6%で、県の正答率を4.1ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの場面を多く設定し、意見と理由を述べることを習慣化させていく。</li> <li>・話を聞くときには、話し手の伝えたいことや工夫を意識して聞くようにさせる。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は40.1%で、県の正答率を14.8ポイント下回った。</li> <li>●25.3%が無回答であることから、書くことに抵抗のある児童や問題が終わらなかつた児童が多いことが分かる。</li> <li>●2段落構成で書くことができた児童は24.2%と、大変低かった。</li> <li>○回答できた児童は、自分の考えとその理由を書くことができていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や家庭学習で作文や日記を取り入れる。また、国語だけでなく他教科でも自分の考えや分かったこと、振り返りなど文章を書く機会を多く作り、書くことへの抵抗感をなくす。</li> <li>・視写を取り入れたりと、作文の書き方や段落構成など基本的な内容を繰り返し指導したりすることで、段落分けをして書けるようにする。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は59.2%で、県の正答率を5.3ポイント下回った。</li> <li>○登場人物の気持ちについて叙述を基に捉えることができた児童が93.4%で県の正答率を2.5ポイント上回った。</li> <li>●場面の様子について叙述を基に捉えることができた児童が31.9%と、大変低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や家庭学習で様々な物語文や説明文の問題を解かせる。</li> <li>・物語文では、様子や情景描写などに着目させて、人物の気持ちなどを読み取らせる。</li> <li>・説明文では、文章構成や接続語、指示語なども考えさせながら内容を読み取らせる。</li> </ul>

# 宇都宮市立横川西小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.1	58.9	59.2
	図形	43.6	53.0	53.7
	測定	24.7	33.1	32.6
	データの活用	15.7	24.4	24.6
観点	知識・技能	49.7	54.3	54.7
	思考・判断・表現	30.0	38.5	38.3



## ★指導の工夫と改善

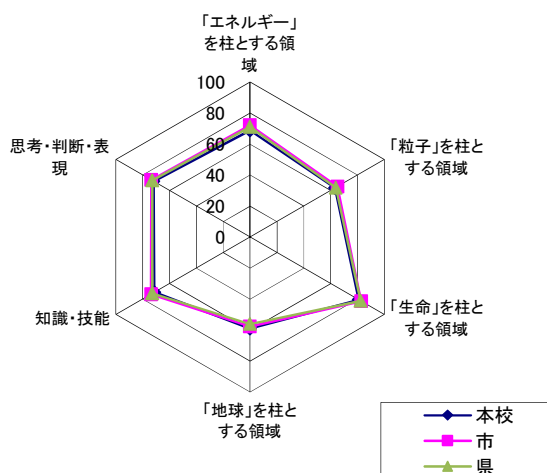
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は55.1%で、県の正答率を4.1ポイント下回った。</li> <li>○「<math>2\text{けた} \div 1\text{けた} = 1\text{けた}</math>の計算をする。」の平均正答率は94.5%で、県の正答率を3.9ポイント上回った。</li> <li>○「分数の表す正しい大きさを答える。」の平均正答率は83.5%で、県の正答率を5.8ポイント上回った。</li> <li>●「数量の関係について□を使って正しく表された図を選ぶ。」の平均正答率は58.2%で、県の正答率を13.7ポイント下回った。</li> <li>●「□を使ったかけ算の式に合った文章を選ぶ。」の平均正答率は25.3%で、県の正答率を14.4ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・□を使って正しく表された図を選んだり、□を使ったかけ算の式に合った文章を選んだりする問題では、問題を読んで状況を理解する力が不十分であったと考えられる。問題の場面を図で表すなどイメージする力を育てる。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は43.6%で、県の正答率を10.1ポイント下回った。</li> <li>●「円の性質を利用して正三角形を作図する。」の平均正答率は20.9%で、県の正答率を19.1ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円の性質や正三角形の定義についても復習をし、しっかり理解させる。</li> <li>・既習事項を活用して、応用的な問題にも回答できるようにする。</li> </ul>
測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は24.7%で、県の正答率を7.9ポイント下回った。</li> <li>●「はかりの目盛りを読み取り、重さを答える。」の平均正答率は18.7%で、県の正答率を8.3ポイント下回った。</li> <li>●「重さが同じになる組み合わせとして、正しいものを選ぶ。」の平均正答率は18.7%で、県の正答率を8.1ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重さの学習の理解が不十分であると考えられる。ものの重さにあったはかりを選択して、身の回りのいろいろなものの重さをはかる活動を取り入れる。その際、はかりの目盛りの大きさを理解し、正しく重さを測定することができるようにする。</li> <li>・重さの単位の理解が不十分であると考えられる。繰り返し単位換算の問題に触れるようにする。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は15.7%で、県の正答率を8.9ポイント下回った。</li> <li>●「目盛りの付け方が異なる2つのグラフで、棒の長さで数を比べられないわけを説明する。」の平均正答率は9.9%で、県の正答率を13.5ポイント下回った。</li> <li>●「示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだわけを説明する。」の平均正答率は2.2%で、県の正答率を8.4ポイント下回ったのに加え、無回答率も55.0%だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題が後半になるにつれて無回答率が高くなったので、最後まで諦めないで粘り強く問題に取り組む力を育みたい。</li> <li>・グラフの読み取り方の理解が不十分であると考えられる。問題に合わせた適切な棒グラフの縦軸、横軸の目盛りのとり方について確認した上で、類題を授業や家庭学習などで積極的に取り組み、定着を図る。他教科と関連して、テーマに応じたグラフを作成したり、グラフを読んだりする活動を通して、さらなる定着を図る。</li> </ul>

# 宇都宮市立横川西小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	68.8	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	63.2	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	81.0	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	59.0	57.7	56.2
観点	知識・技能	71.4	73.8	72.8
	思考・判断・表現	71.9	73.7	72.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は68.8%で、県の正答率を2.2ポイント下回った。</li> <li>○「車が動くと考えられる距離を選ぶ。」の平均正答率は79.1%で、県の正答率を8.0ポイント上回った。</li> <li>●「風が強くなるものを動かすはたらきが大きくなることを答える。」の平均正答率は46.2%で県の平均を12.8ポイント下回り、「車を前に動かすために近づける磁石の極を答える。」の平均正答率も64.8%で県の正答率を4.0ポイント下回っている。どちらも短答式の問題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●電気の性質と磁石の性質を混同してしまい正答率が下がったと思われるので、違いを明らかにして指導していく。</li> <li>●音が出る仕組みについて言葉で正しく説明できるよう普段の授業でも正しく使い、自分の考えを表現したり、知識を正しく活用したりすることで言葉の定着を図る。</li> <li>●実際に作った車に風を当てたり、磁石を使って車を動かしたりする実験を通して、実感をもって理解できるように指導していく。</li> </ul>
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は63.2%で、県の正答率を0.7ポイント下回った。</li> <li>○形状の違いによってものの重さは変わらないことについて問う問題では、平均正答率が86.8%で県の正答率とほとんど変わらなかった。</li> <li>●「体積が同じでも種類によって重さが違うことを答える。」の平均正答率が39.6%で県の正答率を1.5ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的な知識について、しっかりと理解をし、定着が図れるよう、授業や家庭学習で繰り返し復習できるようにする。</li> <li>●身の回りにある物を用いて実験を行い、体積を同じにしたときの重さの違いを、手ごたえなどの体感を基にしながら比較する。また、物の形や体積と重さの関係を捉えられるように指導していく。</li> </ul>
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本領域の平均正答率は81.0%で、県の正答率を1.4ポイント下回った。</li> <li>○「植物の体のつくりの共通点を選ぶ。」の平均正答率は97.8%で県の正答率を3.6ポイント上回った。</li> <li>○「バッタとカブトムシを見つけやすい場所を選ぶ。」の平均正答率は98.9%で県の正答率を3.0ポイント上回った。</li> <li>●記述式の問題では無回答率が最も高く、県の平均も10.1ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昆虫と昆虫以外の生物について、体のつくりの違いを表現することができていないため、実際に観察して違いを見つけるような活動を取り入れ、実感をもって理解できるように指導していく。</li> <li>●普段の生活でも生き物について興味関心が高く実感をもって理解することはできるため、今後は知識や考えたことを文章で表現する活動に力を入れていく。</li> </ul>
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本領域の平均正答率は59.0%で、県の正答率を2.4ポイント上回った。</li> <li>●「方位磁針の正しい使い方を選ぶ」の平均正答率は47.3%で、県の正答率を3.6ポイント上回っているが、他の問題に比べて正答率は低く、時間の経過と太陽の方角の関係性を正しく理解していない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実験や観察などの体験を取り入れた学習はよく理解している。今後は、再度実験を通して方位磁針の正しい使い方を身に付け、時間とともに太陽が動き、かげの動きが太陽とは反対になるということを理解させる。</li> </ul>

## 宇都宮市立横川西小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」という質問では、肯定割合は80.6%と県の肯定割合よりも4.5ポイント高い結果であった。自分で何を学習すべきなのかを考えて取り組んでいる児童が多いことが分かる。自主学習の時間割を作成するなど、本校の学校全体での取組を今後も継続していく。

○「家で、学校の授業の予習をしている。」という質問では、肯定割合は66.3%と県の肯定割合よりも5.7ポイント高い結果であった。また、「家で、学校の授業の復習をしている。」という質問では、肯定割合は72.4%と県の肯定割合よりも4.4ポイント高い結果であった。今後も、予習や復習にも取り組むなど、よりよい学習習慣を身に付けさせていきたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」という質問では、肯定割合は71.4%と県の肯定割合よりも7.1ポイント高い結果であった。授業の中でのICT機器の使用も増え、扱いにも慣れてきていると考えられる。今後もより効果的に使用できるようにしていきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」という質問では、肯定割合は87.8%と県の肯定割合よりも9.5ポイント高い結果であった。また、「人と話すことが楽しい。」という質問でも、肯定割合は94.9%と高い結果であった。今後も、より深い話し合いができるように話し合いの仕方を工夫するなどしていきたい。

○「学校のきまりを守っている。」「家でのきまりや約束を守っている。」「将来の夢や目標をもっている。」「自分は家族の大切な一員だと思っている。」という質問では、すべての質問項目で肯定割合が90%を超える結果であった。

●「1か月に何冊くらい本を読みますか。」という質問では、5冊以上読んでいる児童の割合は30.6%で、県の割合よりも16.9ポイントと大きく下回った。毎日少しでも読書をする習慣作りを勧めていきたい。また、読書の楽しさが感じられるように指導を工夫したい。

●「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」という質問では、肯定割合は63.3%で県の肯定割合よりも8.4ポイント低かった。自分で調べることで「分かった・できた」と達成感を感じられるようにし、調べる意欲を育てていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」という質問では、肯定割合は72.4%で県の肯定割合よりも7.9ポイント低かった。授業のまとめの際にキーワードを提示し、それを基に自分の言葉でまとめたり、言葉だけでなく図を用いてまとめたりするなど、いくつかの方法を提示し、文章を書くことへの抵抗感を減らしていきたい。

●テレビや動画の視聴、テレビゲームの使用時間が、「4時間以上」と回答した児童が最も多く、県の割合よりも7ポイント以上高かった。このことから、宿題だけでなく自主学習を推奨したり、テレビやゲームの時間の再確認を呼び掛けるなど家庭と連携して取り組んでいきたい。また、児童自身にも、時間の使い方について考えることができるようにしたい。